

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行NO 1882	
日時 2020年8月29日(日) 晴れ・暑い	
山域 天城・河津川本流	
コース 長泉6:00-天城トンネル-二階滝駐車場7:08-踊り子歩道入口7:20-河津川8:29-入渓-警報器付きのワサビ田8:25-ナメ滝9:29-二階滝9:52-R41410:00-駐車場10:10-旧道テラス(昼食)-温泉	
標高差 上り 入渓点約380m~二階滝上約610m=約230m 下り 二階滝駐車場約600m~河津川入渓点約380m=約220m	
藪漕度 なし	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<h2>ジジ・ババの川遊び</h2>	
参加者 後藤、加藤、星、合谷=4名	

天城トンネルを越えて、二階滝駐車場着。長泉からここまで有料を使って約1時間。伊豆も便利になった。トイレはウオシュレットで完璧。

装備を整えR414を歩いて河津方面に下る。414右は河津川本流がザーザー流れている。鍋失トンネル手前で踊り子歩道を河津川に下る。



二階滝駐車場



河津川本流

下りきると橋がある。ここから河津川に入る。流れは豊かで清冽。

河津川は上流に人工物はない。キレイで安心して水に入れる。

太陽はまだ沢まで届かない。朝もやの中、幻想的な光景が広がる。写真係の私以外は、積極的に水と戯れる。

しかし早朝、まだまだ水温は低い。ワーワーキャーキャーいいながら遡行はつづく。

今朝は、だいぶ凌ぎやすい。

朝もやは次第になくなり、強い日差しが差し込んできた。





ワサビ田の警報器

河津川本流は、大きな滝はない。ナメ状の美しい滝が続く。

- ・・・私が沢登りを初めて行ったのは、1966年（S41年）東丹沢・源次郎沢だった。今から54年前。当時19歳だった。勤めていたK電機・山岳部の先輩に連れられた。その時、一番印象に残ったのは、「山は岩で出来ている」だった。岩山は楽しく、面白く、夢中にさせた。それから私は、登山に傾倒していった。源次郎沢は、私の登山の「原点」になった・・・





1966年（S41年）3月 東丹沢・源次郎沢 後藤＝19歳  
左写真＝上は井上茂貴さん  
装備は全て借り物。靴はナイロン製のキャラバン・シューズ  
ズボンは、黒の学生ズボンを膝で切ったもの。

途中、ちょっとした滝があった。出口が被っていて、乗越しが厳しい。  
Kが積極果敢に攻めたが、どうしても最後が抜けられない。上から「お助けロープ」を差し出した。  
その時、思いっきり背伸びをしたら、ズボンの間に強烈な水流が入り、ズボンが脱げたらしい。我々  
3名は上にいたので、その様子は「残念ながら」目視できなかった。が、当人は、両手が塞がって  
いたので、どうにもこうにも困ったようだ。（`艸`）結局、ロープで滝下に戻り、ことなきを得  
た。やれやれ、後続者がいなくてよかったよかった。

「Kの危ないコメント」

…………瞬間。まずい！ズボンが脱げたあ～！！！！

全く想定外の事だった。

沢用スパッツをしていたので、ズボンに入った水が下から抜けずにパンパンに溜まってしまった。その重  
みでズボンがズリ下がってしまったのだ。

パンツ一枚だけの格好で滝つぼにいる私の姿は自分でも想像に絶する！！！！

おまけに勢いのある水流はザックの中まで入り、背中と足元がたっぴりと重い。

現場は胸の下くらいまでの高さがあり、岩と岩の間に挟まれた首のような場所。  
そのせいで水流が集まりドドドッと一気に流れ落ちている。下部は岩棚。  
この位の高さなら乗越しに問題ないと勢いよく挑戦体制に入った。  
ところが、思った以上の水圧で、身体が押し戻されそうだった。  
両手で岩の窪みを掴み、コッコラショと足をあげた。

エーッ！！！！

何故？何故足が上がらないのぉー！

幾ら踏ん張っても足が上がらない。

直登を避けて上にあがっていた星と合谷が、手を掴んで必死に引っ張ってくれた。だが如何とも上がる事ができない。

それもそうだ。水流の勢いでズボンが脱げてしまって、足元に絡みついてしまっていたのだ。足元にゴワツキを感じ初めてズボンが脱げた事がわかった。決してズボンのゴムが緩んでいたのでもなく、ゴムが切れたわけでもない。

星と合谷の2人は、そんな私の状態はわからず、あたふたしている私の手首を掴んで、大丈夫？手が抜けない？と心配顔。

待って！待って！手が抜ける前にズボンが脱げちゃったよ……。と、

笑いをこらえて、状況を説明した。

水が入ったザックの重みと、足首にズボンが絡まり自由を失った足では、この水流を突破するには、自分の力だけでは無理だ。

近くにいたCLに事の次第を話し、直ぐにザイルを出して貰う

ザイルに捕まりながら、手錠を嵌められたような足首を少しづつづらし滝つぼから離れた。

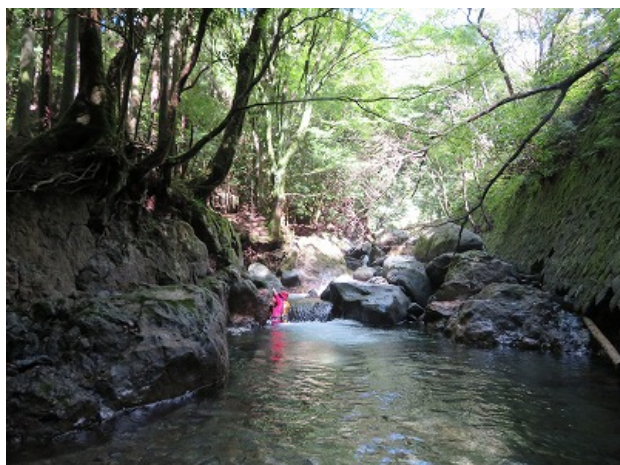
安心感と同時に自分の姿を思い出しクックッと笑いが止まらない。

その後、溯行しながらも笑えた。

だが、真剣に考えると、笑いで済ませられた事で良かったとつくづく思う。

手を離さないで必死で掴んでいてくれた仲間、状況を見てパッとザイルで確保してくれたCL、こんな信頼できる仲間に心から有難うと感謝します。

でもこんな初めての、恥ずかしかったなあ……。 (最後まで笑い)







再び遡行。

途中でワサビ田が二か所あった・下の小さなワサビ田は、センサーがあつて近づくと、「ビービー」警戒音を発した。電源はソーラーだろうか。

途中、イイ感じのナメ滝がある。気温が上がりKが泳いだ。キレイな滝なので動画も撮影。

さらに上って行くと、10mほどの二階滝がある。のっぺりとした滝で上れない。下から見て右の左岸を巻く。沢の右岸・左岸は、上から見た方向で決める。

これは、アルピニズムがイギリス発祥で、議会の右左も同じで、議長から見た方向で左右が決まっているという。

滝を巻いて再び沢に降りると、なんと水が濁って来た。この時点で、理由は不明。

もう一つ、上れない滝があつて、R414を歩いて濁りの理由が分かった。上流で工事をやっていたのだ。







夏は沢だね

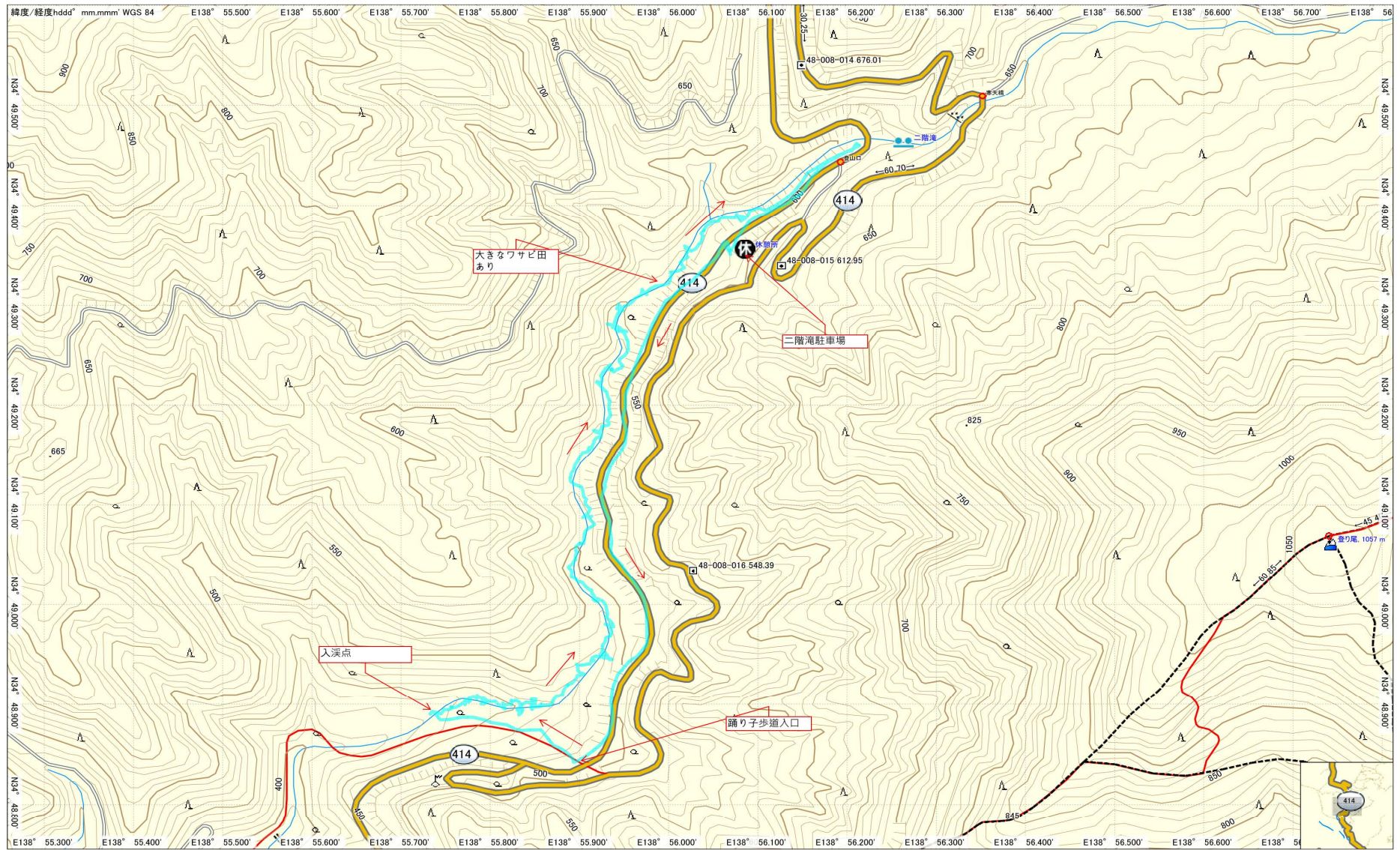


河津川の河童さん

結局、沢遊びはここで終了。2時間ほどだった。

あと、1時間遊びたいところだったが残念。トンネルを潜り、旧道を上り途中の樹間で昼食。木漏れ日と冷風がサイコー。食後は、ゴロゴロ昼寝でした。





Japan Topo 10M Plus V3  
 Garmin Maps Co., Ltd 2014  
 Garmin Corporation 1995-2014

2020/09/06 10:33:16

GARMIN